

フードバンクこども支援プロジェクトにおける 子どもの貧困の把握に関する支援世帯向けアンケート調査

I. 調査の概要

本調査は立教大学 湯澤直美教授の協力を得て実施しました。

1. 調査の目的

最近になって「子どもの貧困」が社会的な問題として認知されるようになってきました。しかし、未だに「見えない貧困」といわれるように、行政や支援団体に繋がらない生活困窮世帯も多く、その実態は明らかになっていません。本調査ではそのような背景を踏まえ、重篤な状況に置かれた生活困窮世帯の現状を、当事者の現在や過去の生活・就労状況から明らかにすることを目的としています。

2. 調査方法と回収状況

(1) 調査対象

連携機関（行政福祉課、社会福祉協議会、学校）を經由して 2016 年冬の「フードバンクこども支援プロジェクト」において食料支援を申請した子どものいる生活困窮世帯

(2) 調査方法

2016 年冬の「フードバンクこども支援プロジェクト」の支援世帯にアンケート票、及び返送用封筒を同封して郵送。各支援世帯で回答した後、返信用封筒により返送

(3) 調査期間

平成 28 年 12 月 24 日～平成 28 年 12 月 31 日

(4) 回収状況

調査対象数	回収数	回収率
511	171	33.4%

※511 世帯のうち、381 世帯が小中学校からの申請者により、食料支援を実施した世帯。残りの 130 世帯が、福祉課、社会福祉協議会等からの申請により食料支援を実施した世帯。

3. 主な調査項目

- ・ 家族構成
- ・ フードバンクの食料支援について
- ・ 過去・現在の生活状況

【問い合わせ先】

認定 NPO 法人フードバンク山梨

Tel : 055-298-4844 Mail : info@fbyama.com

II. 調査結果の要点

1. 調査対象世帯のうち、約3割は子どもが幼いころから生活困窮に陥っている

経済的に苦しいと感じるようになった時期をみると、第一子が中学生になる以前からという世帯が62.6%でした。特に「第1子出産前」、「第1子出産直後」、「第1子が幼児の頃」を合すると54名(31.6%)でした。粉ミルクの不足など、出産直後から重篤な状況に置かれている子どもたちの現状も見えてきました。(P4)

2. 子どもが幼いころからの支援を求める声が多い

いつごろからフードバンクの食料支援があればよかったですかという問い、「第1子出産前」、「第1子出産直後」、「第1子が幼児」と回答したのは合計で34.5%、「小学校低学年」、「小学校高学年」の合計が35%でした。約7割の回答者が、第一子が中学生になる以前からフードバンクの支援があればよかったですと回答しました。(P5)

3. 「自殺したいと思った」と22.2%が回答した

子どもが生まれてからフードバンクを利用する前までの時期に経験したこととして、「カウンセリングや精神面での治療を受けたいと思った」が56名(32.7%)、「過労(極度の疲れ)で寝込んだ」が44名(25.7%)、「自殺したいと思った」が38名(22.2%)でした。(P5)

4. 7割近くの世帯が食料を買えなかった経験をしている

昨年1年間、経済的理由で家族のために食料を買えなかった経験は、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると67.3%でした。また、子どもの文房具・教材が買えなかった経験においては、5割があったと回答しました。(P6)

5. 7割以上の世帯がスクールソーシャルワーカーの役割を知らない

「スクールソーシャルワーカー」について「名称も役割も知らない」人は45.6%、「役割は知らないが、名称を聞いたことがある」人は30.4%でした。回答者の76%はスクールソーシャルワーカーの役割を知らないことが分かりました。(P7)

6. 母親の雇用形態における正社員・正職員割合の低さ

父親の雇用形態は、正社員・正職員の割合が最も多く、47.1%でした。母親の雇用形態で最も多いのは、パート・アルバイトの58.8%、2番目に多いのは派遣・契約で20.6%でした。母親の正社員・正職員の割合は16%で、父親の割合の約3分の1でした。(P8、P9)

7. 母親の9割は、1ヶ月あたりの収入が20万円に満たない

母親の場合は10万~15万円の収入が46.6%と最も多く、90.1%が20万円未満の収入でした。父親の50.0%は1ヶ月あたりの収入が20万円未満でした。(P9)

8. フードバンクを利用して、約 8 割の世帯で家計の負担が軽減した

フードバンクを利用して改善したこととして、82.5%が「家計の負担の軽減」と回答しました。(P10)

9. 7 割の世帯がフードバンクを利用するまで活動内容を知らなかった

29%がフードバンクについて「名前も活動内容も知っていた」と回答。「名前だけは聞いたことがあった」「名前も活動内容も知らなかった」の回答を合計すると、活動内容を知らない回答者が 7 割を占めました。(P11)

10. 8 割近くの世帯が、現在の暮らし向きが「苦しい」状況にある（無回答を除く）

「平成 27 年国民生活基礎調査」（厚生労働省）から「児童のいる世帯」の回答をみると、「大変苦しい」「苦しい」と感じている回答者は 63.5%であり、本調査回答者のほうが苦しいと感じている層が多いことがわかりました。(P11)

11. 子どもが生まれてからお金を借りた経験がある世帯は 6 割以上

子どもが生まれてから生活費をまかなうためにお金を借りたことのある世帯は 65.5%で、その内の 76.8%が家族・親族から借り、次いで 35.7%がクレジットカードのキャッシングを利用したと回答しました。(P12)

12. 7 割の家庭が無料の学習支援を希望している

子どもを継続的に開催される子どもを対象とした無料の学習支援に「参加させたい」「参加させたいが、実際に利用するのは難しい」との回答が 77.2%ありました。利用するのが難しい理由としては、「時間がない」「送迎ができない」等の声があげられました。(P12、P13)

13. 食料支援の申請にためらいがあった世帯は約 5 割

50.9%が食料支援を申請することにためらいが「ややあった」と回答しました。次いで「ほとんどなかった」が 19.3%、「まったくなかった」と回答したのは 18.1%でした。(P13)

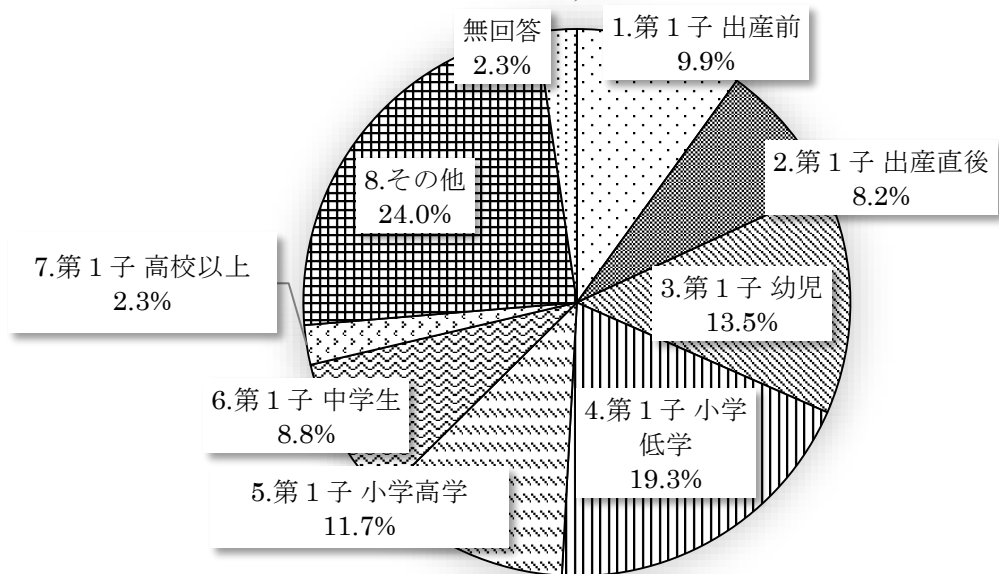
14. 利用者の声

記述からは、食料提供の感謝だけでなく、貧困が子どもに及ぼす影響への不安や葛藤、障害や病気に関する悩みや不安などが多く寄せられました。中には「着る服もなく、食べ物も少なく、短いえんぴつをずっと使う日々」、「気がつけば今日一日誰とも話してないとか…話するのは子供だけ」、不安が「沢山ありすぎて書けない」といった回答もあり、「生活するのに精一杯」という現状がうかがえます。そんな状況下でも、「経済的な理由で”夢をもてない”という事がないようにしたい。」という声もありました。(P14)

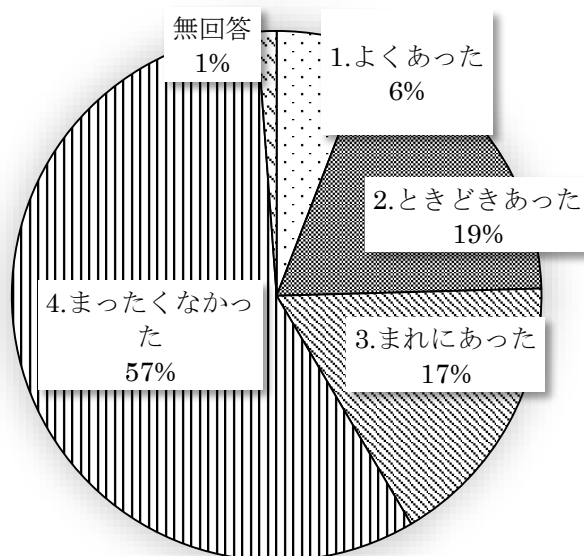
1. 経済的に苦しいと感じるようになったのはいつ頃からか (n=171)

・経済的に苦しいと感じるようになった時期をみると、「第1子出産前」「第1子出産直後」「第1子が幼児の頃」を合せると54名(31.6%)であり、回答者の約3割が比較的早い時期から生活困窮状況にあったといえます。また、子どもが乳幼児の頃にオムツやミルクが不足した経験を聞いたところ、「あった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると41.5%に及んでいました。母親の妊娠・出産期、子どもの乳幼児期から支援が行き届くことが必要であることが示唆されます。

問8.あなたのご家庭で、経済的に苦しいと感じるようになったのはいつ頃からですか



お子さんが乳幼児の頃、経済的な理由でオムツやミルクが不足することはありましたか

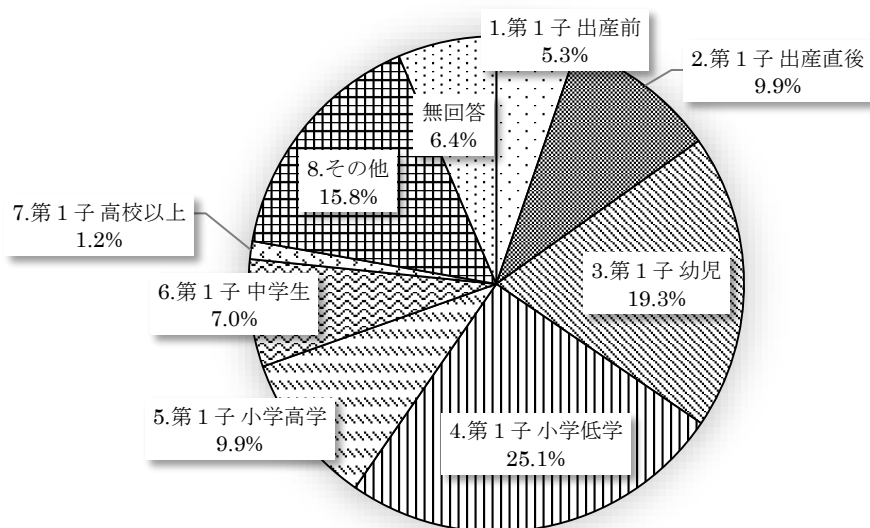


2. いつごろからフードバンクの食料支援があればよかったか (n=171)

・P4の通り、早い時期から生活困窮状態であることから、第一子が小学生になる以前にフードバンクの食料支援があればよかったという回答が、約3割に及んでいます。

・25%が第一子が小学低学年の時にフードバンクの食料支援を受けたかったと回答し、次いで19%が第一子が幼児の時と回答しました。

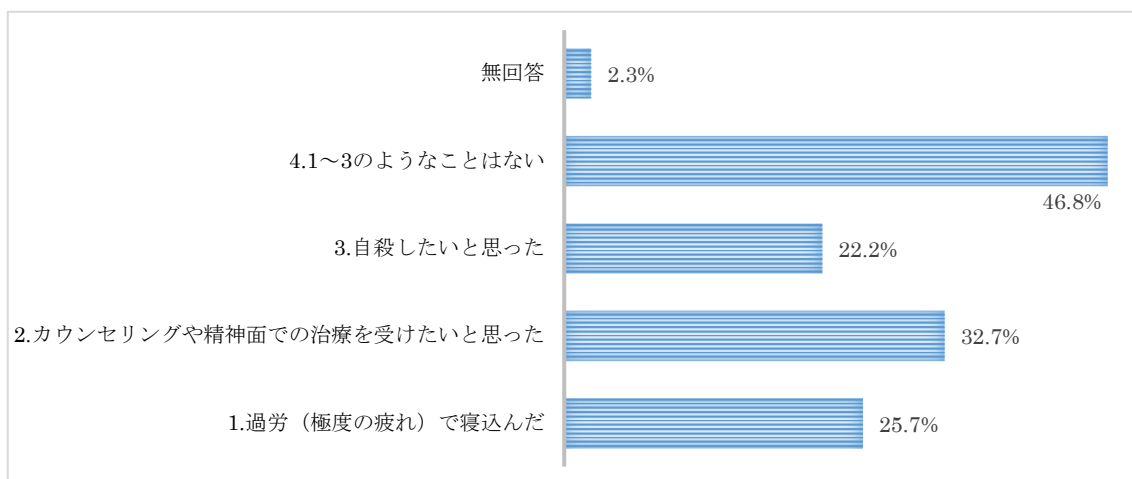
問9.あなたのご家庭では、いつ頃からフードバンクの食料支援があればよかったと思いますか



3. お子さんが生まれてからフードバンクを利用する前までの時期に経験したこと

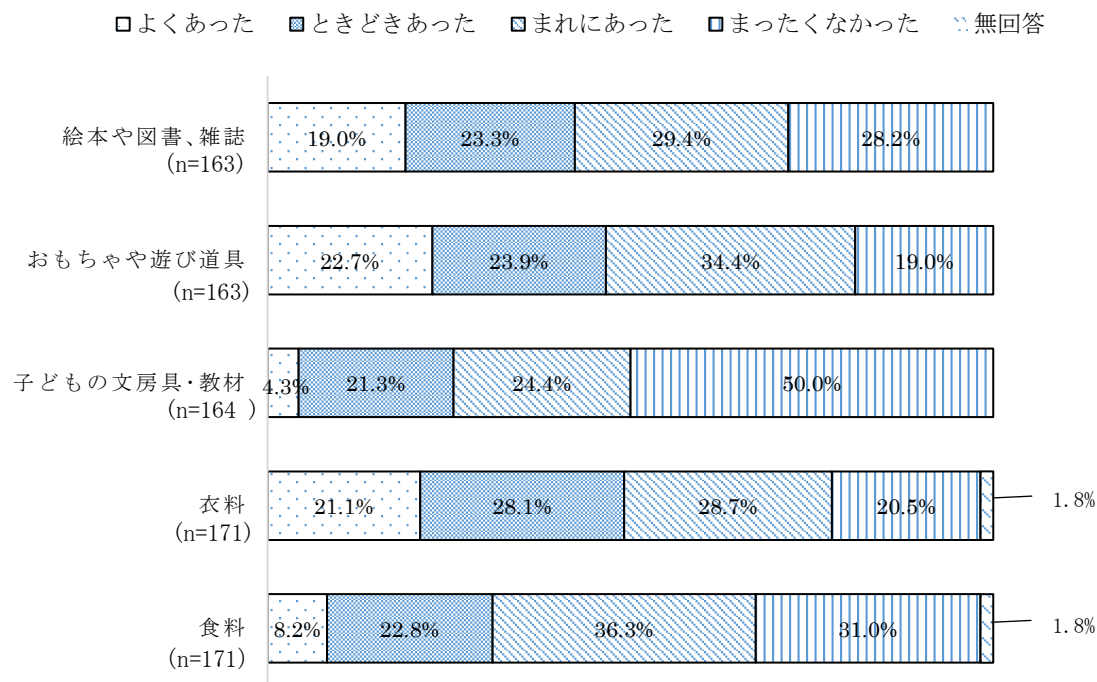
(n=171 複数回答)

・「カウンセリングや精神面での治療を受けたいと思った」が56名(32.7%)、「過労(極度の疲れ)で寝込んだ」が44名(25.7%)、「自殺したいと思った」が38名(22.2%)です。このような経験がないと回答した人は46.8%であり、回答者の約半数がこのような厳しい生活状況におかれていたことが把握されました。



4. 経済的理由で購入できなかった経験 (n=171 複数回答)

・購入できないもののうち、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計の割合が最も多かったのは「おもちゃや遊び道具」の81%でした。次いで「衣料」が77.9%、「絵本や図書、雑誌」71.7%、「食料」が67.3%、「子どもの文房具・教材」が50.0%でした。



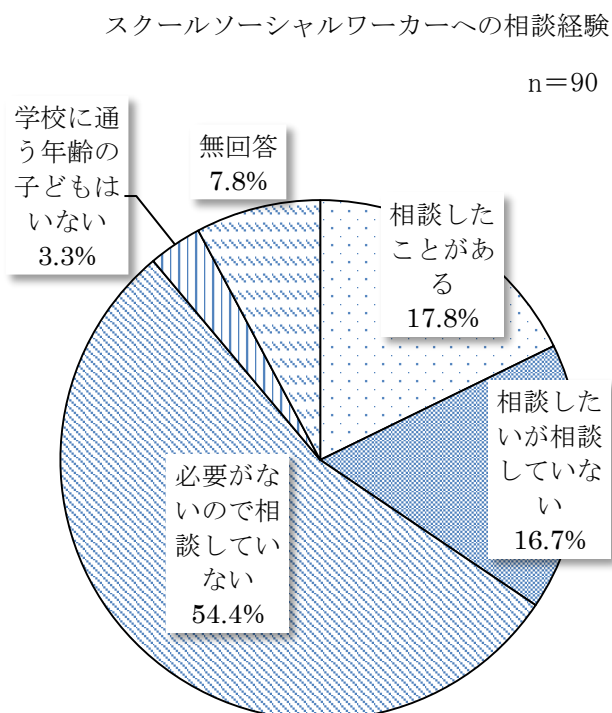
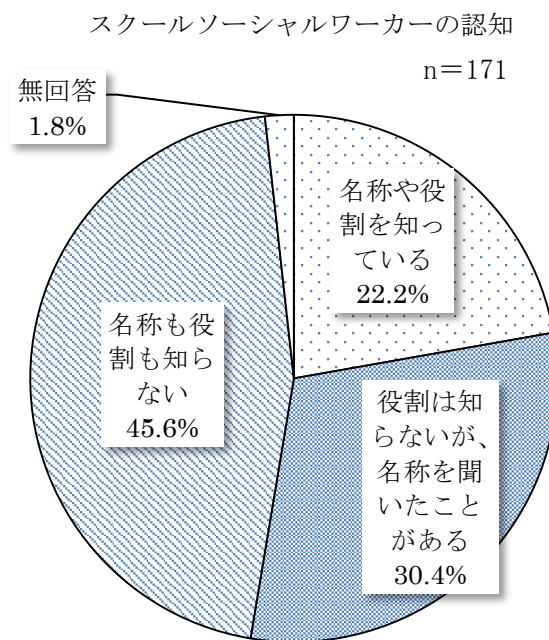
関連する記述

- ・子供が友達の持っている物をほしがったりして困る事がある。高価な物を持っている子が多いので、うらやましがる。
- ・子供は健康ですが、ほしいと言うおもちゃが買えない。
- ・もう少し収入をふやして、他の子と同じように、習い事などや同じものを買ってあげたいと思っています。がまんをさせてしまっているのです・・・

5. ソーシャルワーカーの認知と相談経験

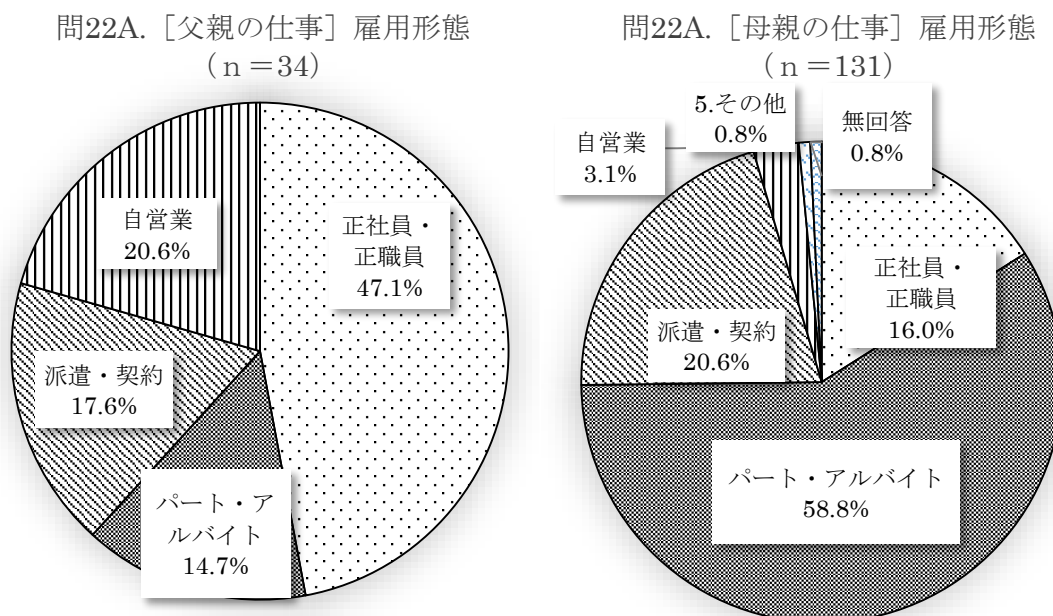
・利用できる制度についてどの程度認知されているかをみると、「フードバンク」について「名前も活動内容も知らなかった」人が32.2%でした。「スクールソーシャルワーカー」について「名称も役割も知らない」人は45.6%、約半数になっています。

また、「スクールソーシャルワーカー」について、「相談したことがある」人は17.8%であり、「相談したいが相談していない」人が16.7%いることも把握されました。



6. 母親の雇用形態における正社員・正職員割合

父親の雇用形態は、正社員・正職員の割合が最も多く、47.1%でした。母親の雇用形態で最も多いのは、パート・アルバイトの58.8%、2番目に多いのは派遣・契約で20.6%でした。母親の正社員・正職員の割合は16%で、父親の割合の約3分の1でした。



- ・父親の一週間当たりの労働時間は43～48時間が最も多く26.5%でした。次いで35～42時間と49～59時間がともに17.6%でした。
- ・母親は35～42時間が最も多く36.6%でした。次いで20～34時間が19.8%でした。
- ・一週間の労働時間が42時間未満の割合は、父親が35.5%であるのに対して、母親は67.8%でした。

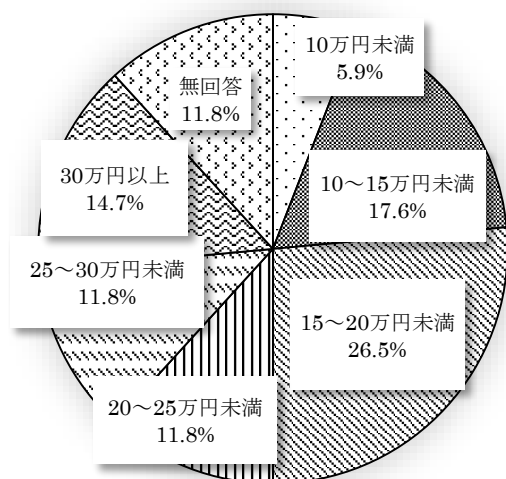
関連する記述

- ・自分自身の性格が完璧主義なようで、毎日座るひまもなく仕事や家事育児を行い、毎日睡眠不足になってしまい、いずれ体調をいどくくずすのではないかと不安になっています。
- ・経済的理由で、平日は早朝より夜まで仕事し、夜は、アルバイトで、子供との時間がとれない事に困ってます。
- ・とにかく収入が少なくて困っています。めいっぱい働かせていただいているのですが月収13万程度です。転職も考えましたが、この年齢で新たな職につき、長続きするかどうか、自身がないので、今の職場で頑張るしかありません。子供に不自由な思いはさせたくはないので、必要な物を優先して買い与えているので、とても自分に欲しいものなど買う余裕はありません。仕事で帰りが遅いので(19時頃)できあいのおそうざいなどで夕食も済ませています。

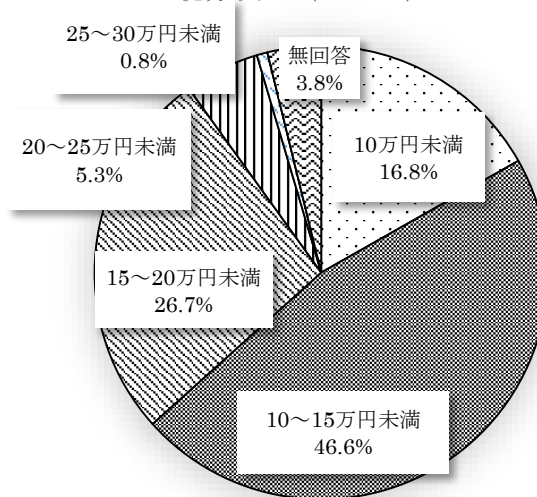
7. 母親の雇用形態における1ヶ月あたりの就労収入

母親の場合は10万～15万円の収入が46.6%と最も多く、90.1%が20万円未満の収入でした。父親の50.0%は1ヶ月あたりの収入が20万円未満でした。

問22F. [父親の仕事] 1ヶ月あたりの就労収入 (n=34)



問22F. [母親の仕事] 1ヶ月あたりの就労収入 (n=131)



・昨年1年間の収入を税込で尋ねたところ、「ふたり親世帯」では、父親の収入が「0～200万円未満」が合わせて17名(43.6%)、「0～300万円未満」でみると27名(69.2%)です。約7割が300万円未満の収入です。「父子世帯」では、6名中3名が200万円未満です。

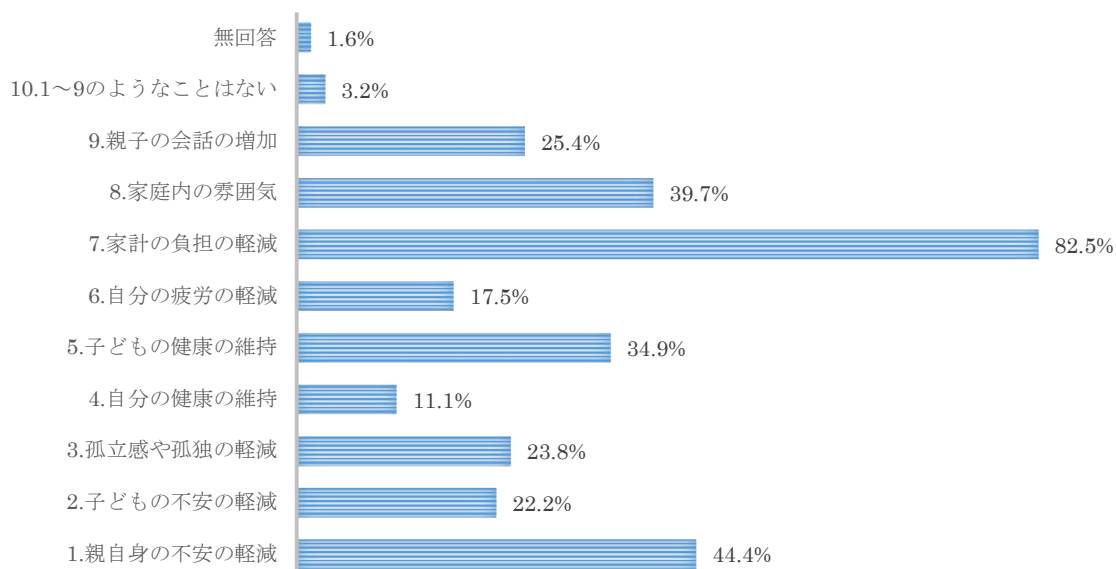
		昨年(2015年)1年間の収入(税込み)を教えてください。お子さんのお父さんが働いて得た収入											合計
		収入はなかった	100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400～450万円未満	父親は同居していない	無回答	
ふたり親世帯	度数	6	6	3	2	6	4	6	1	0	0	5	39
	%	15.4%	15.4%	7.7%	5.1%	15.4%	10.3%	15.4%	2.6%	0.0%	0.0%	12.8%	100.0%
父子世帯	度数	0	2	1	0	1	0	0	0	2	0	0	6
	%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%

・「母子世帯」の母親の収入をみると、「0～200万円未満」が合わせて91名(72.8%)、「0～300万円未満」でみると112名(89.6%)と約9割を占めています。

		昨年(2015年)1年間の収入(税込み)を教えてください。お子さんのお母さんが働いて得た収入										合計
		収入はなかった	100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400～450万円未満	無回答	
母子世帯	度数	11	25	24	31	17	4	3	1	1	8	125
	%	8.8%	20.0%	19.2%	24.8%	13.6%	3.2%	2.4%	0.8%	0.8%	6.4%	100.0%

8. フードバンクを利用して改善したこと (n=63 複数回答)

・「家計の負担の軽減」の回答が最も多く 82.5%でした。次いで親自身の不安の軽減が 44.4%、家庭内の雰囲気 が 39.7%、親子の会話の増加が 25.4%、子どもの不安の軽減が 22.2%と続いた。



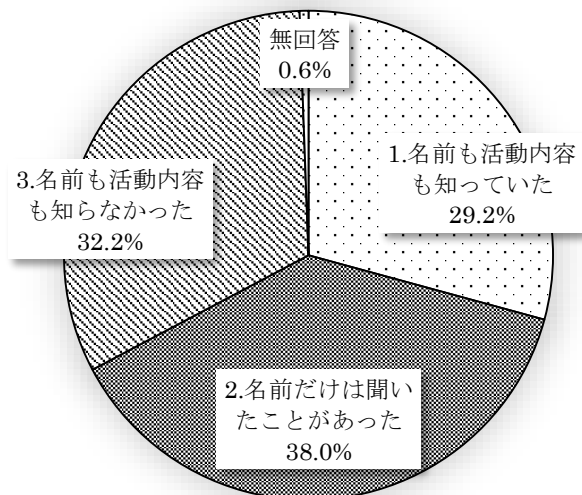
関連する記述

- ・今回のように食料品を届けていただくのは大変助かりますし、食費の節約にもなりました。ありがとうございました。
- ・おやつを普段買う事が無かったので、(ジュース等も) 子供は大変喜んでおります。
- ・お菓子や缶づめなどが入っていて、子どもがとても喜んでいました。お米も入っているので、いつも一合くらいしか炊いてなかったが、一合から 1.5 合に増やすことができました。お菓子や乾物で一品増えたりして本当にありがたかったです。
- ・夏休みも冬休みも、どこへも連れて行ってあげることができず、子供たちにかわいそうな思いをさせていますが、フードバンクからの温かな贈り物に子供たちもとても喜んでいました。
- ・今回、思いきってフードバンクさんに申し込みをさせていただき、食材が届いた時には、とても温かい気持ちになりました。子供が大きくなり、もう少し働けるようになったら、今度は、恩返しさせていただきたいと思っています。

9. 「フードバンク」の名前や活動について知っていたか (n=171)

・29%がフードバンクについて「名前も活動内容も知っていた」と回答し、「名前だけは聞いたことがあった」「名前も活動内容も知らなかった」の回答を合計すると、活動内容の内容を知らない回答者が7割を占めることとなりました。

問7.フードバンクを利用する以前に、あなたは「フードバンク」という活動があることを知っていましたか

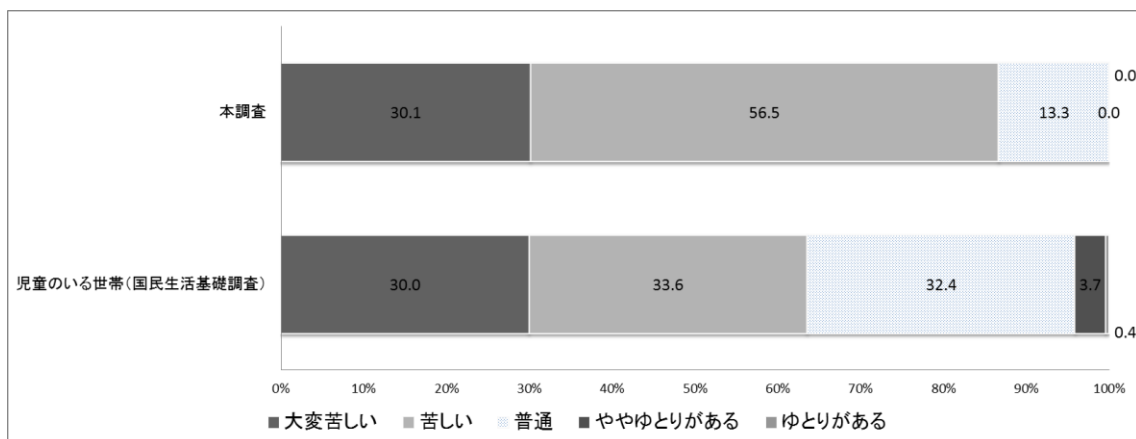


10. 暮らし向きに関する意識 (n=166)

・現在の家庭の暮らしを「大変苦しい」「苦しい」と感じている回答者は、本調査では合わせて86.6%と大半を占めています（無回答を除く）。一方、「平成27年国民生活基礎調査」（厚生労働省）から「児童のいる世帯」の回答をみると、「大変苦しい」「苦しい」と感じている回答者は63.5%であり、本調査回答者のほうが苦しいと感じている層が多いことがわかります。

n=166

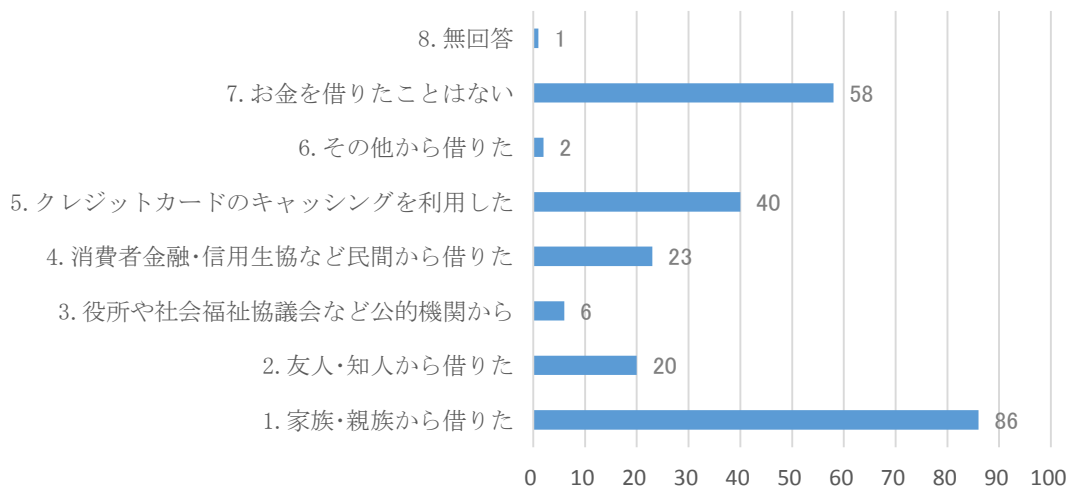
	大変苦しい	苦しい	普通	ややゆとりがある	ゆとりがある
児童のいる世帯(国民生活基礎調査)	30.0%	33.6%	32.4%	3.7%	0.4%
本調査	30.1%	56.5%	13.3%	0.0%	0.0%



11 生活費をまかなうためにお金を借りたことがあるか（複数回答 n=171）

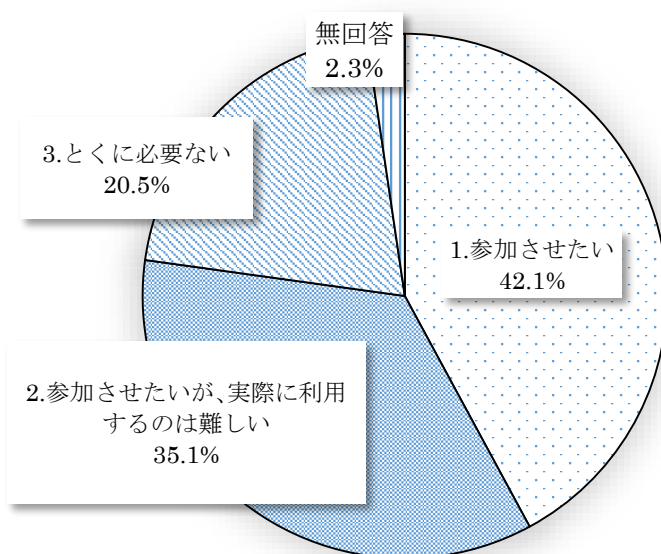
・生活費をまかなうためにお金を借りたことのある世帯は 65.5%で、その内の 76.8%が家族・親族から借り、次いで 35.7%がクレジットカードのキャッシングを利用したと回答しました。

問20. お子さんが生まれてから、生活費をまかなうために、お金を借りたことがありますか（複数回答）



12. 継続的に開催される子どもを対象とした無料の学習支援があった場合、参加させたいか(n=171)

・「参加させたい」が最も多く(42.1%)、「参加させたいが、実際に利用するのは難しい」が続きました(35.1%)。両回答を合計すると、77.2%が参加させたいと回答したものの、記述からは参加しにくい現状が見えてきました。



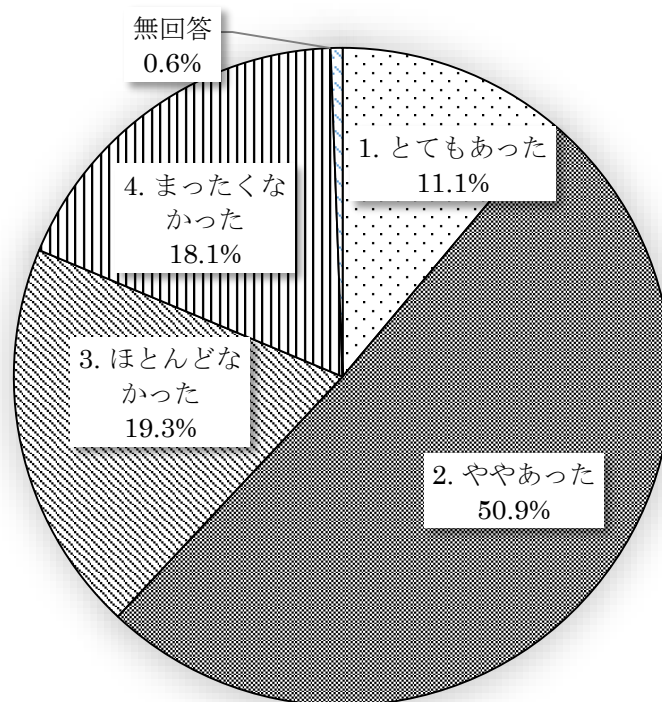
関連する記述

- ・嫁いってから地理に詳しくない。足もない。療育必要な子供たちなので、なにかあった時の対応が困ることも考えると手ばなしで行くのはむずかしい。
- ・学校での学習会には参加しているが、別場所で送迎が必要になると、実母を実家で在宅介護している都合上、送迎ができない。
- ・コミュニケーションをとるのが苦手で本人が利用してくれない。
- ・フードバンク利用と知っておもしろおかしく回りに言いふらすような人がいる為。子どもがかわいそうになる。近くに住んでいるので、知られたくない。

13. 食料支援の申請にためらいがあったか (n=171)

- ・「ややあった」が最も多く 50.9%でした。次いで「ほとんどなかった」が 19.3%、「まったくなかった」と回答したのは 18.1%でした。
- ・約半分の世帯が申請することにためらいがあったと回答した。

問6.食料支援を申請することに、ためらいはありましたか
(n=171)



14. 利用者の声

記述からは、食料提供の感謝だけでなく、貧困が子どもに及ぼす影響への不安や葛藤、障害や病気に関する悩みや不安などが多く寄せられました。

食品提供への感謝

- ・今回初めて「フードバンク」よりご支援いただき、とても良い年末年始を送る事ができ私共、とても感謝しています。ありがとうございます。子供達にもたくさんの人に助けしてもらいながら、生きている事も忘れないように。
- ・今回、始めて、この支援を知りました。上の子が、特別学級にいる為、届いたのだと思います。とても、ありがたいと感じました。でも、我が家は、父親が、自営で、苦勞はしていますが、頑張っている。もっと、キツイ生活をしている方に、助けを求めている方に、我が家の分を与えて下さい。届いた物は、有りがたくいただきますが、次回からは、もっと困っている方へ送って下さい。助けが無く、困っている方を、助けて下さい。とても、ステキな支援だと思います。
- ・今回初めて、利用させて頂きました。プレゼントが届いた時、中学生の娘と大喜びして、同時に感謝でいっぱいになりました。娘が「本当にありがたいね」って言った時、私の心も温かくなりました。本当にありがとうございました。助かりました！

貧困が子どもに及ぼす影響への不安や葛藤

- ・夏休みは絵日記があるため、近くのプールやゆうえんちなど有料の場所に連れていきたいが、いけず、ばあばの家や家で、1000円で買った安いプールにおふろの残り湯などを入れてあそびました。どうして家だけ出かけないのかな？と思うみたいです。
- ・まわりの子がディズニーランドや、映画に行った話などをしたり、すきやきを食べたとか聞いてきた事にたいして、自分も行きたいとか食べたいとか言うようになってきたので、友だちとの話に入れない事で仲間はずれになっていないか、服がおさがりのいただき物ばかりで、嫌な思いをしていないかと心配です。
- ・子供達が自力で行動できる範囲内の距離に子供達も楽しめて、働く親としては安心な場所があったらいいなと思いました。長期のお休み中は児童館などには子供が少なく、(私の地域では)、結局朝から夕方6：00過ぎまで1人で自宅にいます。何かあった時、すぐ飛んで行ける所に職場があるわけではないので、とても不安です。

障害や病気に関する悩みや不安

- ・第1子療育手帳持ち。第2子手帳なしだが軽度。西日本から嫁いで誰も頼れず、手さぐりで育児をしています。私が家族からインフルエンザ等もらっても常に動き続けねばなりません。子供生んでから休めたことなどなく、私は倒れる訳にはいかない状態です。